

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 01-240469
(43)Date of publication of application : 26.09.1989

(51)Int.Cl.

B65D 81/32
A61J 1/00

(21)Application number : 63-064122
(22)Date of filing : 17.03.1988

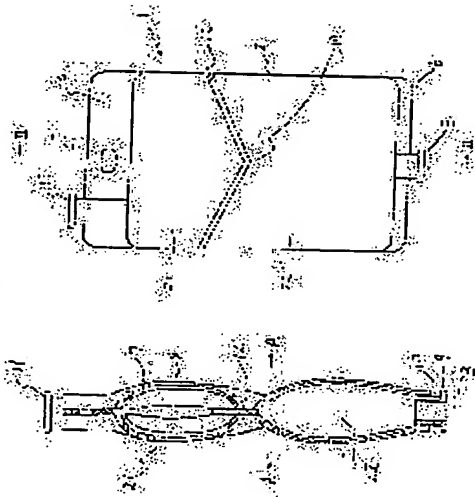
(71)Applicant : MATERIAL ENG TECH LAB INC
(72)Inventor : SUZUKI TATSUO
ISONO KEINOSUKE

(54) CONTAINER WITH CONTENT AND ITS MANUFACTURE

(57)Abstract:

PURPOSE: To sterilize and preserve a plurality of contents containing components reactable with one another separately, and easily mix them within the container at the time of use by a method wherein a multi-layer structured wall of a container where isolating means are faced is heat-bonded by a specific width and the isolating means are removed to have the contents mixed within the container at the time of using.

CONSTITUTION: An outer layer 7 of a container part 2 of a medical container 1 is made of straight-chain low density polyethylene, and an inner layer 8 is provided by heat-welding with a tube-like sheet which is obtained by blown-film extrusion and has multi-layer structure made of low density polyethylene whose tensile strength is smaller than that of the outer layer 7 and with a part 12 of the container 1 adhered, to obtain the container 1. Inner layers of a part of the container part 2 are heat-bonded with each other by using an impulse heater or a heat sealer with heater width of 1W3mm, so that a chambers 21 and 22 are isolated by an isolating means 12. By holding both the ends of the package and pulling the isolating means 12 in a direction so that at least a part of the isolating means 12 is removed so as to have the chamber 21 and the chamber 22 jointed, drugs are mixed within the container part 2.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision]

of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 特 許 公 報 (B 2)

(11)特許番号

第2675049号

(45)発行日 平成9年(1997)11月12日

(24)登録日 平成9年(1997)7月18日

(51)Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 81/32			B 6 5 D 81/32	D
A 6 1 J 1/05			A 6 1 J 1/00	3 5 1 A

請求項の数4 (全 7 頁)

(21)出願番号 特願昭63-64122
(22)出願日 昭和63年(1988)3月17日
(65)公開番号 特開平1-240469
(43)公開日 平成1年(1989)9月26日

(73)特許権者 999999999
株式会社新素材総合研究所
東京都世田谷区大原2丁目21番13号
(72)発明者 鈴木 龍夫
東京都町田市小山田桜台1丁目5番地27-302
(72)発明者 磯野 啓之介
埼玉県川口市大字安行藤八46番地112
(74)代理人 弁理士 若林 忠

審査官 溝渕 良一

(56)参考文献 特開 昭63-19149 (J P, A)

(54)【発明の名称】 内容物入り容器

1

(57)【特許請求の範囲】

【請求項1】複数の内容物をそれぞれ隔離して封入することができる隔離手段を有する容器であって、前記隔離手段が対面する多層構造をなす容器壁が熱接着されたものであり、保管時に前記隔離手段の近傍で二つ折りにされた包装状態に置かれ、且つ使用時に隔離手段を剥離して前記内容物を前記容器内で混合することができる内容物入り容器。

【請求項2】前記隔離手段は変曲点を有することなく容器壁が熱接着されたものであることを特徴とする請求項1に記載の内容物入り容器。

【請求項3】前記隔離手段の内層の引張強度が外層よりも小さく、前記内層が低密度ポリエチレンであり、前記外層が直鎖状低密度ポリエチレンである請求項1に記載の内容物入り容器。

2

【請求項4】前記外層の肉厚が前記内層の肉厚の2倍以上である請求項1ないし3のいずれかに記載の内容物入り容器。

【発明の詳細な説明】

【産業上の利用分野】

本発明は、使用直前まで複数の内容物が隔離手段を有する一つの容器内にそれぞれ隔離されて封入されており、使用直前に前記隔離手段を開通させて容器内で混合することができる内容物入り容器に関する。

特に、クローズド医療システムに用いられる高カロリー輸液剤やエレメンタルダイエツト（以下EDと略す）等の成分で互いに反応しやすい成分をそれぞれ独立させて複数種入れることのできる潰れ得る内容物入り容器に関する。

【従来の技術】

近年生体に必要な栄養素すべてを経静脈より摂取する高カロリーを輸液療法がさかんに行われるようになってきた。高カロリー輸液療法が適用されるのは、消化管縫合不全、消化管通過障害等の経口摂取が不十分または不可能な場合炎症性腸疾患、重症下痢等の経口摂取が好ましくない場合、広範熱傷、多発重症外傷等の経腸補給を上回る高カロリー補給が望まれる場合、肝不全・腎臓不全、糖原病等の疾患による代謝の特異性を応用する場合などである。

高カロリー輸液療法に用いられる高カロリー輸液剤は生体に必要な栄養素をすべて適量含むことが基本である。すなわち、糖質、アミノ酸、主要電解質、微量金属及びビタミンを含む多成分輸液剤になる。しかし、これらのすべてを含む複合液を製品化することは配合性、安定性の面で現在は不可能である。そこで、現在三つの方法が用いられている。

①市販の高カロリー輸液用基本液を用いる。高濃度ブドウ糖液に主要電解質が配合された液で、使用時アミノ酸を混合し、ビタミン及び不足な電解質を添加する。

②市販の高張ブドウ糖液とアミノ酸液を混合又は両方を連結して投与する。

③高カロリー輸液基本液又はブドウ糖液を独自に薬局製剤室で作成する。

いずれにしても、高カロリー輸液用基本液又は高張ブドウ糖液にアミノ酸液を使用時に混合して患者に投与するわけである。

[発明が解決しようとする問題点]

従来、ブドウ糖とアミノ酸を配合して一液製剤とし容器に封入すると、高圧蒸気滅菌時及び保存時にブドウ糖とアミノ酸との間で反応が起こり輸液剤が着色したり変質したりしていた、このため、上述したように現在のところブドウ糖とアミノ酸のように互いに反応しやすい成分を含む薬剤を混合して一液製剤とすることができず、これらの薬剤を使用直前に混合して患者に投与していた。このように、使用直前に混合するという操作は、調剤ミスを起こす可能性があり、また混合時の汚染等の問題がある。

また、最近では、一つの容器内に隔離手段を設けて、使用直前にこの隔離手段を開通させ複数の薬剤を容器内で混合することができる薬剤入り容器が市販されるようになってきた。。しかしながら従来の隔離手段は、複数の室に分けている隔離部に栓を固定しておき、使用時にこの栓を容器の外側から折り開通させるもの、また、複数の室に分けている隔離部を一部開通させておき、外側からこの開通部分をクリップで止めているものがある。

しかしながら、前者の栓方式では、別に作製した栓を容器内に投入し容器と接着させなければならない。このとき、容器内を汚す危険性が高く、さらに液密に栓と容器を接着することが困難であった。栓と容器を接着するには、三次元構造の接着が容易な高周波溶着が適している

が、高周波溶着で接着できる材質は、ポリ塩化ビニル樹脂やエチレン-酢酸ビニル共重合体など誘電損失の大きな材質に限定される。安全性の高いポリオレフィン樹脂は誘電損失が小さいので用いることができない。また後者のクリップ方式では、移送中あるいは保存中に開通したのかどうかの確認ができないので、使用する側からすれば、不安が大きい。また、隔離維持の確実性を向上させるためには、開通部を出来るだけ小さくすることが必要である。その結果、複数の薬剤を混合するためには、一つの室に全ての薬剤を集めることが必要である。それ故、容器全体のサイズが大きくなってしまいう問題点もあった。

本発明は、互いに反応しやすい成分を含む複数の内容物をそれぞれ隔離した状態で滅菌及び長期間保存でき、使用時には容易に容器内で開通させて内容物を混合させることができ、さらに容器内の清潔度が高くコンパクトな内容物入り容器を提供することにある。

[問題点を解決するための手段]

本発明は、複数の内容物をそれぞれ隔離して封入することができる隔離手段を有する容器であって、前記隔離手段が対面する多層構造をなす容器壁に熱接着されたものであり、保管時に前記隔離手段の近傍で二つ折りにされた包装状態に置かれ、使用時に前記隔離手段を剥離し前記内容物を前記容器内で混合することができる内容物入り容器を提供することにある。

[作用]

前述したように、互いに反応する成分を含む薬剤を一液製剤にしておくと、滅菌時及び長期保存時に薬剤が変色或は変質してしまうので、使用直前に混合する必要がある。この混合時に調剤ミスや汚染等の問題が発生していた。かかる問題を解決するためには、複数の室を有する容器を形成し、それぞれの室に互いに反応しやすい成分を含む薬剤を隔離して所定量を封入しておき、使用直前にこれらの複数の室を形成している隔離手段を開通させて容器内で前記薬剤を混合することにより上記問題点を解決することができる。

本発明の内容物入り容器においては、隔離手段は対面する容器壁が熱接着されたものであり、特に保管時に前記隔離手段の近傍で二つ折りされた包装状態に置かれるものである。すなわち、容器の移送時や保管時に隔離手段が剥離しにくいように、第7図(a)、(b)に示すように、隔離手段の近傍で二つ折りにして包装される。このようにすれば、移送時の落下等の衝撃や保管時の積み重ね等の外圧による隔離手段の開通を防止することができる。すなわち、隔離手段の近傍で二つ折りにすることにより、隔離手段近傍の対面する容器壁が、剥離する方向に広がりにくくなるからである。

第7図(a)に示した容器の隔離手段12は、変曲点を有していないが、変曲点を有する隔離手段の場合でも同様の効果があることは言うまでもない。

容器の少なくとも一部を多層シートで作製し、隔離手段として容器の多層構造部の一部を巾が通常 1～3mm の範囲で熱接着して複数の室を形成することにより、この隔離手段に剥離させる方向に力を加えると、比較的容易に外層を破壊することなく接着している内層を破壊して各室を連通させることができる。この隔離手段の巾が 1mm 未満であれば、高圧蒸気滅菌によりあるいは搬送中の外圧により複数の室が開通してしまう危険性が大きいし、3mm 以上であれば、接着力が大き過ぎて必要ときに複数の室を開通させることが困難となり易い。さらに、外層の肉厚を内層の肉厚の 2 倍以上にすることにより、一層確実に外層を破壊することなく接着している内層を破壊できる。

また、容器部を複数の室に分けるための隔離手段を形成するとき、合成樹脂製多層シートの内層の引張強度が外層よりも小さくすることにより、外層も破壊することなく接着している内層を破壊することができる。

[実施例]

次に、本発明を図面に基づいて具体的に説明する。

本発明による医療用容器の一例を第 1 図及び第 2 図に示す。医療用容器 1 の容器部 2 は、その外層 7 が直鎖状低密度ポリエチレンで形成され、その内層 8 には外層 7 よりも引張強度の小さい低密度ポリエチレンで形成されている多層構造のインフレーション成形によって得たチューブ状のシートの両端開放部を熱溶着し、更に容器部の一部 12 を接着することによって得たものである。両端開放部を熱溶着するときには、確実に溶着できるように温度、加熱時間及び圧力を充分とり、また、溶着巾を 4mm 以上にすることが好ましい。また、排出口部 3 は、その内層 9 が合成樹脂で形成され、その外層 10 には容器部の外層 7 および排出口部の内層 9 よりも低い融点を有する合成樹脂が被覆されている。一方の融着端部 4 には、医療用容器 1 を懸垂するための懸垂口 5 及び薬剤注入口 11 が設けられ、他方の融着端部 6 には、排出口部 3 が挿入溶着されている。融着端部 6 に排出口部 3 を熱溶着するとき、排出口部 3 の外層 10 が内層 9 及び容器部の内層 8 と外層 7 よりも融点が低いので、外部よりも加熱により内層 9 が先に溶融し、容器部 2 と排出口部 3 は、容易にかつ確実に溶着することができる。

さらに第 3 図に示すように、排出口部 33 は、その外層 40 にはリング状等の突起部 41 を有することが好ましい。すなわち、溶着端部 6 に排出口部 33 を挿入溶着するとき、より確実に液密に溶着することができるからである。

容器部の外層 7 としては、好ましくは直鎖状低密度ポリエチレンであるが、その外に、中密度ポリエチレン、高密度ポリエチレン、塩素化ポリエチレン、ポリプロピレン、オレフィン系エラストマー、ポリエステル系樹脂、ポリアミド系樹脂、ポリウレタン系樹脂等を用いることもできる。また容器部の内層 8 としては、好ましく

は柔軟性に優れ破袋強度の小さな低密度ポリエチレンであるが、その外に、外層 7 より引張強度の小さい中密度ポリエチレン、直鎖状低密度ポリエチレン、エチレン-酢酸ビニル共重合体、軟質ポリ塩化ビニル樹脂等を用いることもできる。ただし、外層 7 との組み合わせを考慮する必要がある。

これらの多層シートの厚みは、0.1～0.5mm、好ましくは 0.2～0.4mm とすることができる。0.1mm 以下であると破袋強度が悪くなり破損の危険性が増大する。また 0.5mm 以上であると柔軟性と透明性が悪くなる。また、容器部の外層 7 と内層 8 の接着性が悪いときには、外層 7 と内層 8 の間に中間層として接着層を有する多層シートを用いることもできる。

排出口部 3 は二色成形法にて作製することができる。排出口部 3 の内層 9 には、直鎖状低密度ポリエチレン、高密度ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエステル系樹脂、ポリアミド系樹脂等を用いることができる。排出口部 3 の外層 10 は、低密度ポリエチレン、中密度ポリエチレン、直鎖状低密度ポリエチレン、エチレン-酢酸ビニル共重合体等を用いることができる。さらに、排出口部 3 の外層 10 は、容器部 2 の内層 8 と同じ合成樹脂を用いることにより、容器部 2 と排出口部 3 を容易にまた確実に熱溶着することができる。

また、排出口部の内層 9 と外層 10 の接着性が悪いとき等には、内層 9 と外層 10 の間に中間層として接着層を有する三色成形により、排出口部 3 を作製することが好ましい。

また本発明の医療用容器は、上述の合成樹脂の押出成形によって得られた多層ラミネートシート二枚を重ね合わせ、その周縁部を熱溶着することによって得ることができる。

さらに本発明の医療用容器は、上述の合成樹脂の中空成形によって得られた多相中空成形品を用いることができる。

このようにして得られた容器は、容器部の一部をヒーター巾が 1～3mm のインパルスヒーターあるいはヒートシーラーを用いて内層を互いに熱接着させ、隔離手段 12 により室 21 と室 22 に隔離される。この熱接着条件の温度、加熱時間、圧力を調整することにより、隔離手段 12 の接着強度を容易に調整することができる。

次に、排出口部 3 と薬剤注入口部 11 より、互いに反応する成分を含む薬剤をそれぞれの室 21、22 に分離して注入し、排出口部 3 と薬剤注入口部 11 を封入する。次に、この薬剤入りの医療用容器を高圧蒸気滅菌する。

この薬剤入り容器は、使用直前に室 21 と室 22 に封入されている薬剤を混合して使用される。容器部の両面を保持し、隔離手段 12 を剥離する方向（第 2 図の A 方向）に引っ張り隔離手段 12 の少なくとも一部を剥離させて室 21 と室 22 を連通させ、それぞれの薬剤を容器部 2 内で混合する。次に、排出口部 3 に輸液セットのピン針を挿入

7

し、通常の輸液手技に基づいて患者に薬剤を投与する。

また、隔離されている各室に、凍結乾燥されたED粉末と滅菌水、あるいは抗生物質の粉末と生理食塩水を封入することもできる。

隔離手段12の剥離を更に容易にするためには、隔離手段12を変曲点を有する曲線あるいは屈曲部を有する線分（この屈曲部も変曲点の範に入れる）で構成される形状にするのが好ましい。例えば、接着部を第1図に示すような一個の変曲点14（屈曲部）を有するV字状にすることにより、容器部2に通常の外圧が加わっても隔離手段が剥離することはなく、容器部の中央部を保持して隔離手段を剥離する方向に引っ張れば変曲点14から容易に隔離手段の少なくとも一部を剥離することができる。更に、隔離手段を第4図、第5図に示すような形状125、126にすることができる。（変曲点を有する曲線で構成される接着部は図示せず）

また、第5図に示すように、室521、室522、室523と三室を有する容器を作製することもできる。

さらに、容器部に外圧が加わっても、隔離手段に対して剥離方向に大きな力が加わらないように、第6図に示すように、隔離手段の近傍に補助シール15を設けることが好ましい。この補助シールにより、使用直前での隔離手段の開通の容易性を損なうことなく、高圧蒸気滅菌や薬剤の分注時での隔離手段の剥離を、より確実に防止することが可能である。

実施例 1 ～ 3

直鎖状低密度ポリエチレン（商品名：ニポロンーL、東ソー株式会社製、密度： 0.925g/cm^3 、MI:1）と低密度ポリエチレン（商品名：ペトロセン、東ソー株式会社製、密度： 0.925g/cm^3 、MI:3）を用いて、低密度ポリエチレンが内層になるように共押出成形によるインフレーションチューブを作製した。外側の直鎖状低密度ポリエチレンの層の厚みは $220\mu\text{m}$ 、内側の低密度ポリエチレンの層の厚みは $30\mu\text{m}$ であった。また、排出口部と薬剤注入口部を高密度ポリエチレン（商品名：ニポロンハード、東ソー株式会社製、密度： 0.960g/cm^3 ）と低密度ポリエチレン（商品名：ペトロセン、東ソー株式会社製、密度： 0.917g/cm^3 ）を用いて二色成形により作製した。排出口部及び薬剤注入口部の外側の低密度ポリエチレンの層の厚みは $50\mu\text{m}$ であった。

次に、インフレーションチューブの一方の端部を二色成形により作製した薬剤注入口部を挿入溶着し、さらに懸垂口を設けた。他方の端部は、二色成形により作製した排出口部を挿入溶着し、容器を作製した。上記インフレーションチューブの両端部の溶着は、溶着巾を 5mm にして、溶着条件は、温度 150°C 、加圧時間7秒、圧力 5kg/cm^2 であった。

この容器の中央近傍部位をV字状のヒートシール金型にて接着巾が 1mm 、 1.5mm および 3mm になるように熱接着して隔離手段を設けて容器部を二室に分け、薬剤注入口

8

部よりブドウ糖を注入し薬剤注入口部を封入した。隔離手段を設けた条件は、温度 130°C 、加圧時間4秒、圧力 3kg/cm^2 であった。次に、排出口部よりアミノ酸液を注入し排出口部を封入した。

これらの薬剤入りの容器を 110°C で40分間高圧蒸気滅菌した。滅菌後、この薬剤入り容器を激しく振動させたが、容器内のブドウ糖液とアミノ酸液は混合されなかった。

次に、これらの薬剤入り容器の隔離手段近傍の容器壁を保持し、隔離手段を剥離させる方向に引っ張ると隔離手段は剥離し、容器内のブドウ糖液とアミノ酸液が混合された。

比較例 1

直鎖状低密度ポリエチレン（商品名：ニポロンーL、東ソー株式会社製、密度： 0.925g/cm^3 ）を用いて、インフレーションチューブを作製した。このインフレーションチューブの厚みは $250\mu\text{m}$ であった。また、排出口部と薬剤注入口部を高密度ポリエチレン（商品名：ニポロンハード、東ソー株式会社製、密度： 0.960g/cm^3 ）と低密度ポリエチレン（商品名：ペトロセン、東ソー株式会社製、密度： 0.917g/cm^3 ）を用いて二色成形により作製した。排出口部及び薬剤注入口部の外側の低密度ポリエチレンの層の厚みは $50\mu\text{m}$ であった。次に、インフレーションチューブの一方の端部を二色成形により作製した薬剤注入口部を挿入溶着し、さらに懸垂口を設けた。他方の端部は、二色成形により作製した排出口部を挿入溶着し、更に容器部の中央をヒートシールにより溶着して二室を有する容器を作製した。

この容器の薬剤注入口部よりブドウ糖を注入し薬剤注入口部を封入した。次に、排出口部よりアミノ酸液を注入し排出口部を封入した。

この薬剤入り容器を 110°C で40分間高圧蒸気滅菌した。

次に、この薬剤入り容器の中央の隔離手段近傍の容器壁を保持し、隔離手段を剥離させる方向に引っ張ると隔離手段は破壊され、容器内のブドウ糖液とアミノ酸液は容器により流出した。

比較例 2

容器の中央近傍部位のV字状の隔離手段を、接着巾が 3.5mm になるように熱接着したこと以外は、実施例1と同様にして二室を有する容器を作製した。

この容器の薬剤注入口部よりブドウ糖を注入し薬剤注入口部を封入した。次に、排出口部よりアミノ酸液を注入し排出口部を封入した。

この薬剤入り容器を 110°C で40分間高圧蒸気滅菌した。滅菌後、この薬剤入り容器を激しく振動させたが、容器内のブドウ糖液とアミノ酸液は混合されなかった。

次に、この薬剤入り容器の隔離手段近傍の容器壁を保持し、隔離手段を剥離させる方向に引っ張ったが、隔離手段は剥離させることは非常に困難であった。

10

20

30

40

50

比較例3

容器の中央近傍部位のV字状の隔離手段を、接着巾が0.5mmになるように熱接着したこと以外は、実施例1と同様にして二室を有する容器を作製した。

この容器の薬剤注入口部よりブドウ糖を注入し薬剤注入口部を封入した。次に、排出口部よりアミノ酸液を注入し排出口部を封入した。

この薬剤入り容器を110℃で40分間高圧蒸気滅菌した。滅菌後、隔離手段が開通しているものが半数以上あり、また開通していないものも激しく振動させると隔離手段が開通してしまった。

【発明の効果】

以上述べたように、本発明の医療用容器は以下に示す利点を有する。

①互いに反応しやすい成分を含む内容物を一つの容器に分離して保存でき、隔離手段の近傍で二つ折りにして包装されているので、容器の移送時や保管時に隔離手段が剥離しにくく、移送時の落下等の衝撃や保管時の積み重ね等の外圧による隔離手段の開通を防止することができる一方、使用時に容易にその容器内で混合できるので調剤ミスや汚染の危険性がない。

②隔離手段の内層は、その外層より引張強度が小さいので、容器部を破壊することなく隔離手段である接着部を剥離できる。

10

20

*

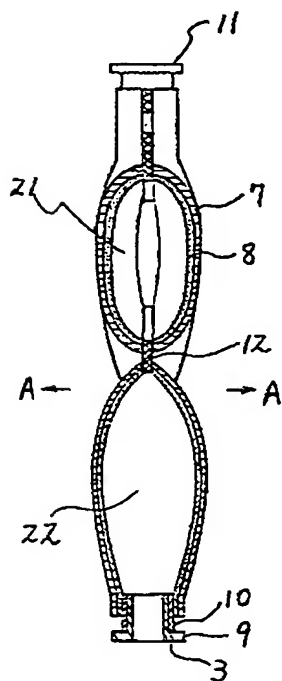
* ③隔離手段である熱接着部の巾を1～3mmの範囲内にすることにより、輸液実施まで確実に複数の内容物を隔離し、かつ使用時には容易に隔離手段を開通させることができる。

【図面の簡単な説明】

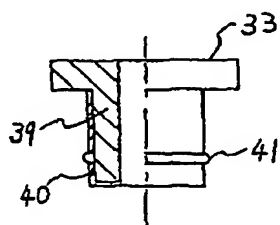
第1図は本発明による医療用容器の第一実施例を示す正面図、第2図は同実施例のII-IIの縦断面図、第3図は排出口部の他の実施例を示す部分断面図、第4図は第二実施例を示す正面図、第5図は本発明の第三実施例を示す正面図、第6図は本発明の第四実施例を示す正面図、第7図(a)は本発明の第五実施例を示す正面図、第7図(b)は同実施例の医療用容器の包装時の状態を示す斜視図である。

- 1……医療用容器、2……容器部、3……排出口部
4……融着端部、5……懸垂口、6……融着端部
7……容器部の外層、8……容器部の内層
9……排出口部の内層、10……排出口部の外層
11, 11'……薬剤注入口部
12, 125, 126……隔離手段、14……変曲点
15……補助シール、16……融着部
21, 22, 521, 522, 523……室
33……排出口部、39……排出口部の内層
40……排出口部の外層、41……突起部
A……接着部を剥離する方向

【第2図】

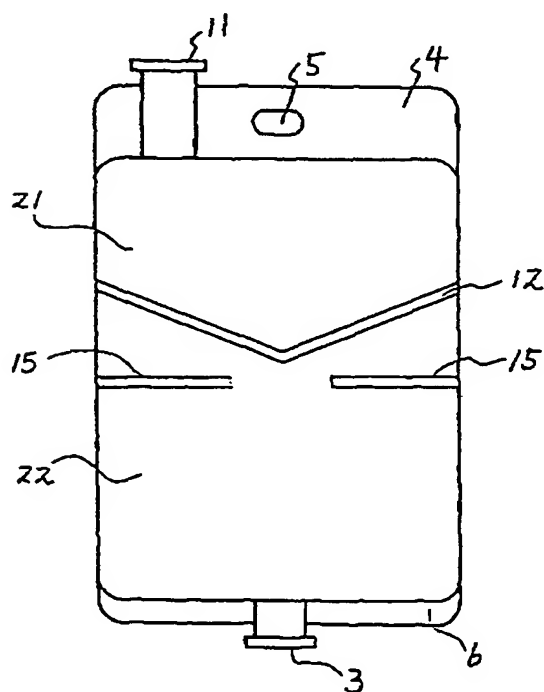


【第3図】



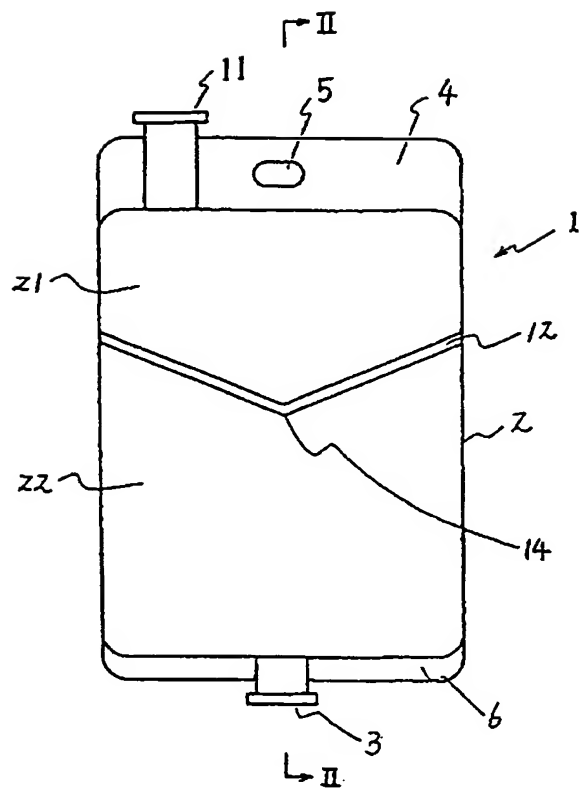
3. 排出口部
7. 容器部の外層
8. 容器部の内層
9. 排出口部の内層
10. 排出口部の外層
11. 薬剤注入口部
12. 隔離手段
21. 室
22. 室
A. 隔離手段を剥離する方向
33. 排出口部
39. 排出口部の内層
40. 排出口部の外層
41. 突起部

【第6図】



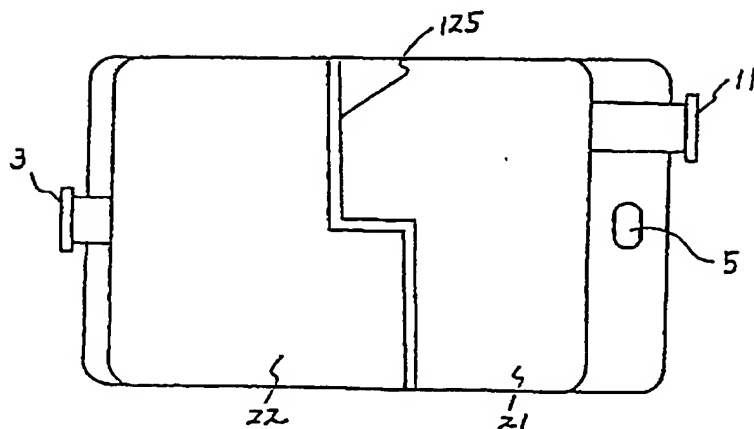
3. 排出口部
4. 融着端部
5. 懸垂口
6. 融着端部
11. 薬剤注入口部
12. 隔離手段
15. 補助シール
21. 室
22. 室

【第1図】

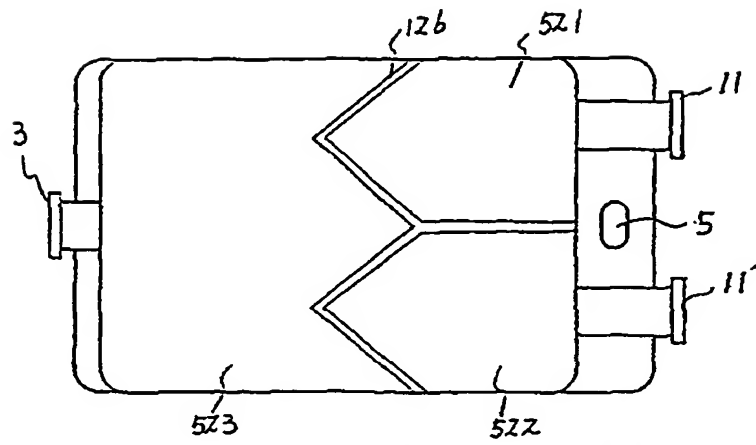


- | | |
|----------|------------|
| 1. 医療用容器 | 11. 薬液注入口部 |
| 2. 容器部 | 12. 隔離手段 |
| 3. 排出口部 | 14. 変曲点 |
| 4. 融着端部 | 21. 室 |
| 5. 融着端部 | 22. 室 |
| 6. 融着端部 | |

【第4図】

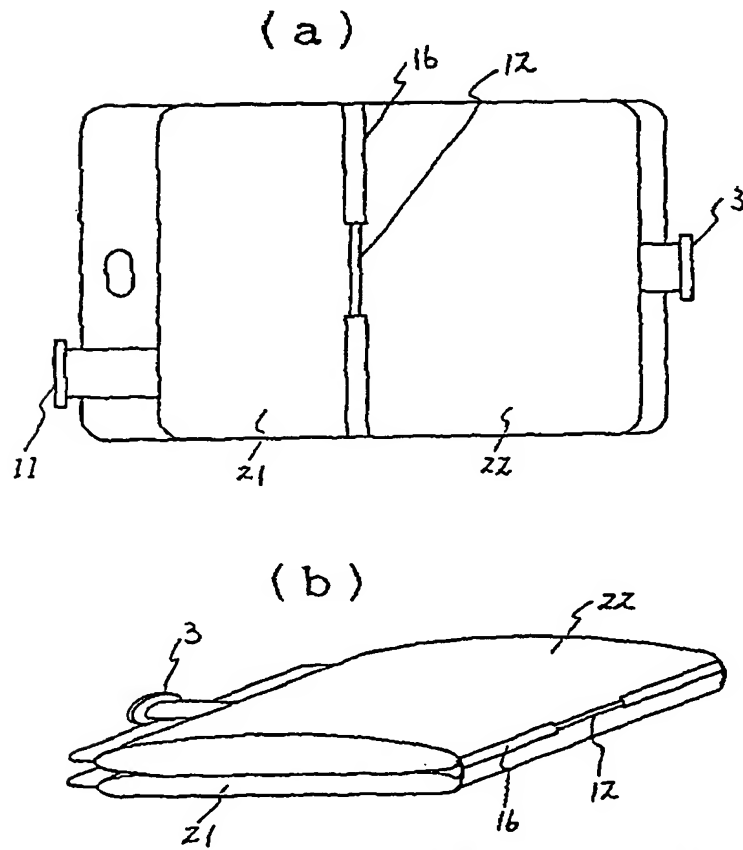


【第5図】



3. 排出口部 5. 懸垂口 11, 11'. 薬液注入口部
125, 126. 隔離手段 21, 22, 521, 522, 523. 室

【第7図】



3. 排出口部 16. 融着部
11. 薬液注入口部 21. 室
12. 隔離手段 22. 室